

甲府PGIシステムに関する利用者評価の実態と今後の運用のあり方

山梨大学工学部 正員 西井和夫
 筑波大学社会工学系 正員 古屋秀樹
 山梨大学大学院 学生員○山田宗男

1. はじめに

1990年より甲府市中心市街地における交通対策として一定の効果を示してきた甲府市駐車場案内システム（以下、甲府PGIシステム）であるが、11年間稼動してきた電光表示板形式での運用は2001年3月をもってその役割を終えた。廃止理由の最も大きなものとしては、郊外SCへの客離れを背景とした中心部商店街の空洞化によって中心部来訪者が減少し、駐車場問題が結果的に軽減したことが挙げられる。他にも、駐車場案内に対する利用者ニーズと提供情報手段・内容が乖離しているという点もその一つである。また最近では、携帯電話（i-modeなど）やインターネットによる次世代型の情報提供手段・方法への模索の動きがあり、民間でその動きが活発である。

これらの背景をもとに、本研究では、既設の表示板形式で運用していた段階での甲府PGIシステムに関する利用者評価を分析し、それに基づいた今後の運用のあり方を探ることとする。

2. 駐車場利用者アンケート調査に基づく分析

2000年9月に、甲府PGIシステム加盟駐車場のうち12箇所の駐車場利用者を対象に、既設の表示板形式によるシステムの利用実態や評価等に関するアンケート調査を行った。休日・平日の2回に分けて調査票を計3,855名に配布し、後日郵送で1,201名から回答を得た。回収率は31.2%であった。

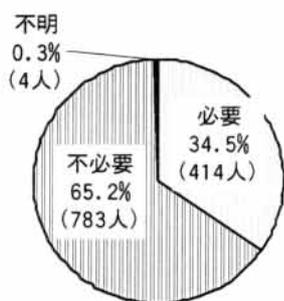


図-1 システム必要の有無

(1)利用者評価の実態
 甲府PGIシステムに対する必要性としては、図-1のような調査結果が出ている。図-1より、駐車場利用者の多くは当時のシステムを「必要と

キーワード；駐車場案内、情報検索
 連絡先；〒400-8511 甲府市武田 4-3-11

TEL/FAX 055-220-8533

していない」ことがわかるが、「必要としていない」理由を尋ねる質問では次のような結果が出た。

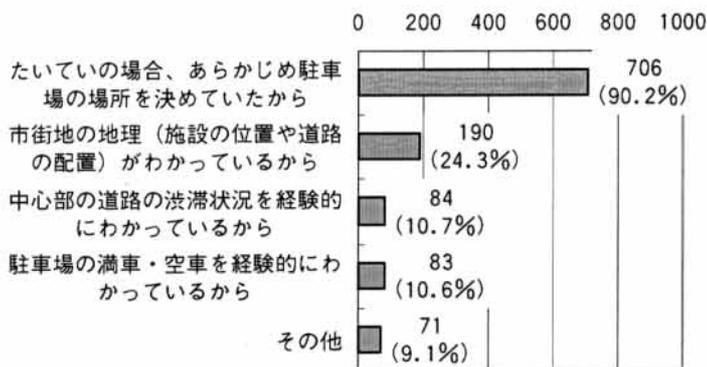


図-2 必要としていない理由

図-2より、「必要としていない」理由は、「予め駐車場の場所を決めてから中心部を訪れるため」という回答を「必要としていない」人の9割が指摘している。また、この駐車場を先決する理由として挙げられたのは、「目的地の専用（契約）駐車場だから」、「目的地にいちばん近い駐車場だから」といった、駐車料金や目的店舗・施設との距離に関するものであった。つまり、甲府PGIシステムを「必要としていない」人は、システムの満空車情報についてはほとんど評価していないことが考えられる。

次に、システムの必要・不必要の判断を分けるものとして、甲府市内中心部への車での来訪頻度にどのように関係しているかを分析した。図-3は、土曜・日曜の甲府市内中心部来訪頻度と必要の有無との関係を挙げているが、平日についても同様の結果が出ている。

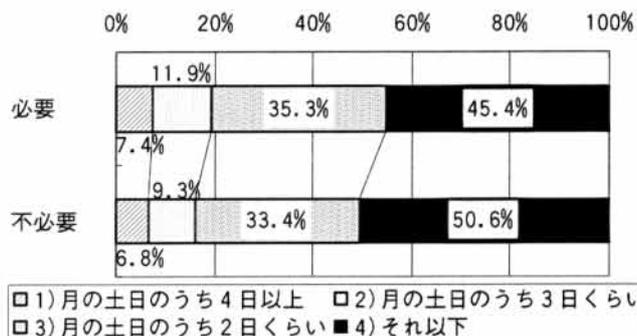


図-3 土曜・日曜の中心部来訪頻度と必要の有無との関係

この分析結果から「必要としている」と答えた人の方が、「必要としていない」と答えた人よりも甲府市中心部への来訪頻度が高い人の構成割合が高いことがわかる。これは、来訪頻度の高い人の方がシステムを必要としている傾向があるということを示している。この結果は、甲府市中心部の駐車場事情に詳しいと思われる人ほどシステムを必要としているということになる。また別の視点で解釈すれば、来訪頻度が高いほど当時のシステムの利用方法を認知していて、駐車場の満空車の状況を経験的にわかっていても、本当に停める駐車場が空車であるか確認するためにシステムを活用しているということが推察できる。

(2)情報検索可能なシステムの模索

近年、様々な情報を取捨選択できる情報ツールが各分野で適用されている。そこで、駐車場案内への適用を探ることを目的として、利用者にとって知りたい情報とは何かを分析する。図-4は、検索型情報手段を用いて知りたい情報についての質問結果である。

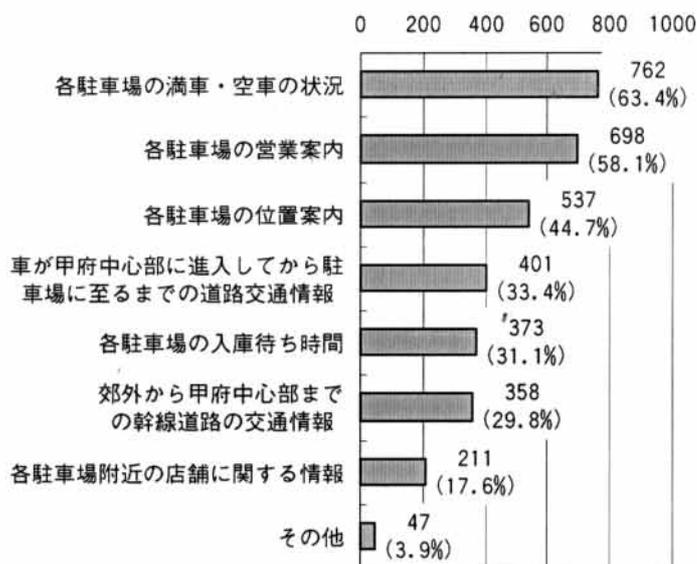


図-4 検索型情報手段で知りたい情報

検索型情報手段では、駐車場の満空車情報といった駐車場案内の基幹的な機能の他に、駐車場の営業案内など各駐車場に関する詳しい情報への要求が高いことがわかる。このように、利用者のニーズの多様化が見られるとき、PGIシステムの将来型情報ツールとしては、一括表示型よりむしろ利用者の個々のニーズに対応し易い情報検索型が最も適しているといえる。

3. 今後の甲府PGIシステムの運用のあり方

図-5は、表示板形式による運用を終了した甲府PGI

システムの今後のあり方についての回答結果である。今後のあり方について、図-5からわかるように「現方式(表示板形式)と、それを補うための新たな情報提供手段の両方を用いる」が約半数を占めているが、これは利用者サイドからみれば最もサービス水準が高いものである。次に、以上の「補完」あるいは「代替」の情報手段として何が最適であるかを示したものが図-6である。

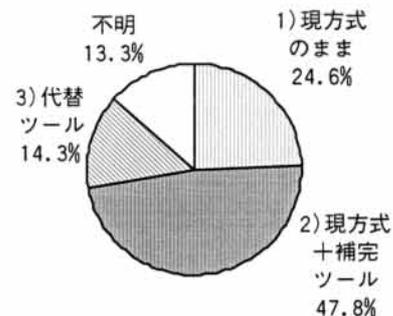


図-5 今後のPGIのあり方

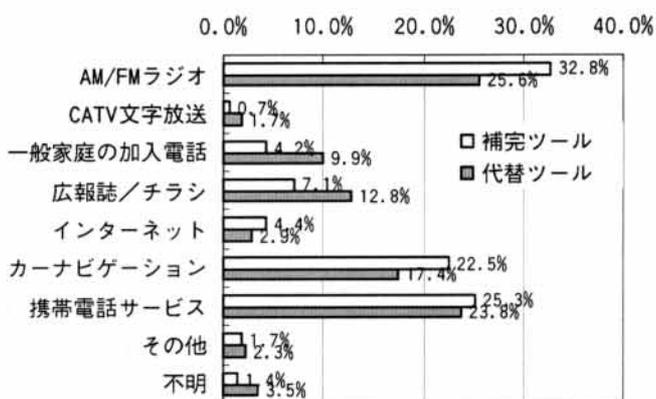


図-6 上位1位の情報手段として選択される割合

普及率や手軽さからラジオを挙げる人が多いが、携帯電話、カーナビによる情報提供の期待がかなり大きいことがわかる。

4. まとめ

甲府PGIシステムの設置当初とは異なり、現時点では、利用者の駐車場情報への要求は既設の表示板形式によるPGIシステムでは対応が難しいことがわかった。今後は利用者の期待が高く、また機能的にも多くの情報をカバーできるパーソナルな情報検索型ツールの適用が有望であると考えられる。

参考文献

- 1)西井和夫、朝倉康夫、古屋秀樹、土屋高亮：「PGIシステムによる満空情報が駐車行動に及ぼす影響分析」、土木計画学研究・論文集 No.12, pp.787-796, 1995.8
- 2)甲府市駐車場案内システム連絡委員会配布資料：「甲府市駐車場案内システムの今後のあり方に関する検討」、2000.12